



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

CITATION:

天象. 天界 1937, 17(192): 242-243

ISSUE DATE:

1937-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167439>

RIGHT:



一九三七年
(昭和十二年)

I——太陽と月 (京都に於る値)

日附	日出	日没	(星 座)	日附	月 齢 (正午)	月 出	月 没	(星 座)
日	時 分	時 分		日	時 分	時 分	時 分	
1	5:45	18:17	(う を)	1	19.3	23:15	8:31	(蛇 遣)
6	5:39	18:21	"	2	20.3	—	9:18	"
11	5:32	18:25	"	3	21.3	0:4	10:10	(い て)
16	5:25	18:29	"	4	22.3	0:50	11:6	"
21	5:19	18:33	(ひ つ じ)	5	23.3	1:34	12:3	(や き)
26	5:13	18:37	"	6	24.3	2:10	13:4	"
				7	25.3	2:46	14:7	"
				8	26.3	3:20	15:11	(みづがめ)
				9	27.3	3:54	16:18	"
				10	28.3	4:29	17:27	(う を)
				11	29.3	5:6	18:39	"
				12	0.9	5:47	19:51	(ひ つ じ)
				13	1.9	6:33	21:3	"
				14	2.9	7:26	22:11	(う し)
				15	3.9	8:24	23:13	"
				16	4.9	9:27	—	(ふ た ぐ)
				17	5.9	10:31	0:7	"
				18	6.9	11:36	0:52	(か に)
				19	7.9	12:39	1:32	"
				20	8.9	13:39	2:7	(し し)
				21	9.9	14:38	2:39	"
				22	10.9	15:36	3:8	"
				23	11.9	16:33	3:37	(を と め)
				24	12.9	17:30	4:7	"
				25	13.9	18:27	4:38	"
				26	14.9	19:22	5:12	(でんびん)
				27	15.9	20:17	5:49	"
				28	16.9	21:10	6:30	(さ そ り)
				29	17.9	21:59	7:15	(蛇 遣)
				30	18.9	22:46	8:4	(い て)

II——天象

日 時	
5, 11	木星が月と合(南3°)
8, 0	水星が金星と合(南7°)
10, 7	土星が月と合(南8°)
12, 5	金星が月と合(北4°)
12, 17	水星が天王星と合(北2°)
12, 20	天王星が月と合(南4°)
12, 20	水星が月と合(南1°)
14, 13	火星が停留
18, 10	金星が内合
20, 11	水星が東方極大離角(20°)
22, 6	海王星が月と合(北7°)
28, 12	火星が月と合(北1°)
30, 18	天王星が會合

下弦 4日, 12時:53分
上弦 18日, 5時:34分
近地点通過 12日, 17時

新月 11日, 14時:10分
満月 26日, 0時:24分
遠地点通過 27日, 19時

主な流星群

日 附	赤緯	赤緯	附近の星	性 質
16日—25日	213°	-10°	をとめ座南部	緩, 火球
20日—22日	270	+33	こと座西部	速, 顯著
30 日 頃	291	+58	りゅう座東部	稍 緩

遊 星 界 (4 月)

水星 先月25日に外合してから後は 宵の西天の星となる。視直径は $5''.2$ から、 $10''.1$ まで増大し、20日に東方極大離角の頃が観望には絶好である。その頃を望遠鏡で見れば、直径 $7''.8$ で、形は大體5日月位に缺けて見える。光度は $+0.5$ 等級であるから肉眼でも探し出す事が出来る。位置は ζ ひつじ座を東進中。

金星 先月27日に停留となつてからは逆行を始めて。本月一ぱいは西へ西へと約1時間運行する。今まで長らく西天の明星として輝いてゐたが、18日に太陽と内合で、以後は東天に移る。従つて本月は観望には適しない。

火星 愈々観望の時期となつて來た。位置は ζ さそり座の北東部で、夜半には東天に高い。14日に停留となつてからは逆行に移る。目下地球にぐんぐん接近しつつあるので、光度は -0.4 より -1.3 等級に増大。視直径も $12''.1$ より $16''.2$ になる。來月下旬の最接近も迫り表面觀察の絶好期。

木星 ζ いいて座の東部を東進中で、光度 -1.8 等級。視直径は約 $38''$ 。次第に太陽より遅れて16日には西矩となるから、夜半頃から東天に見える様になつて來る。

土星 位置は ζ うを座で曉の東天ではあるが、まだ太陽に近く、今しばらくは駄目。

天王星 宵の西天に低く、月末には太陽と會合で観測不能。

海王星 宵の南天 ζ しし座 λ 星附近を逆行中で、まだ観望にはよい。但し光度は7.7等であるから、望遠鏡が必要。

冥王星 大望遠鏡でも實視観測は困難である。

× × × × ×

星座 銀河は西空に低くなつて、誇らしい冬の星座の大部分が既に没し去つたので、可成り寂漠を感じる様になつた。けれども、春の星座を代表する ζ ししや ζ をとめが我が物顔に中天にをさまり、春霞を思はせる様なのどかな景色である。殊にレグルスやスピカの青白色、アクトユルスの赤き輝き等は、地上の花を聯想させる星々である。(星見山人)